

令和 6 年度 第 2 回 土岐市総合計画審議会 議事録

1. 開催日時・場所

令和 6 年 12 月 23 日（月）午後 2 時から 4 時 10 分

土岐市役所 3 階 大会議室 3AB

2. 次第

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 議事
 - (1)第七次総合計画基本構想について
 - (2)第 2 期土岐市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について
4. その他
5. 閉会

3. 資料

- 【資料 1】計画策定にあたって
- 【資料 2】社会潮流について
- 【資料 3】土岐市の現況について
- 【資料 4】まちづくりの課題について
- 【資料 5】将来人口について
- 【資料 6】まちの将来像について
- 【資料 7】基本目標について
- 【資料 8】第 2 期土岐市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について

【参考資料 1】ウェルビーイングアンケート結果抜粋

【参考資料 2】市民懇談会開催概要

4. 出席者

（審議会委員）

菊地 裕幸	宮地 喜博	山口 文子	加納 弘夫	石黒 信彦
小川 大輔	西村 悠	宍戸 乃梨子	戸松 陽子	鈴木 美好
鈴木 健之	広瀬 雅史	加藤 幸代	高橋 範光	小森 直人

（敬称略）

（傍聴者）4 名

5. 議事要旨

I. 委員意見等

(1)第七次総合計画基本構想について

①「計画策定にあたって」「社会潮流について」「土岐市の現状について」

- ・土岐市の現状を検証し計画を策定すること
- ・公共施設の縮減など表現の方法を考慮すること
- ・社会潮流で産業の取り組みを盛り込むことを検討すること
- ・土岐市の現状で企業誘致についての記載を検討すること

②「まちづくりの課題について」

- ・キーワード

にぎわいのある、魅力ある、誇りが持てて住みやすいまち、まちづくり

「にぎわい」「公共交通」「駅前活性化」「こども」「出産可能」「交流」「教育」「子育て」

「安全・安心」「防災」「地域」「魅力ある働き場所」「企業誘致」「地場産業」「陶磁器生産量日本一」「新産業」「移住者の増加」「河川整備」「共創のまちづくり」「住みやすいまちづくり」「誇りの持てるまちづくり」「魅力あるまちづくり」「合計特殊出生率」「生涯未婚率」「よそ者に優しい」「ベッドタウン」「若年層の意見反映」「幸せを実感」

③「将来人口について」

- ・土岐市を消滅させないため、人口増に向かって覚悟を持って取り組む
- ・子育て世代全てに向けた子育てしやすい環境を構築する
- ・土岐市に住むと学力が上がるよう先生への支援を充実させる
- ・住んでいる人が幸せを実感できるまちづくりを目指す
- ・リニア開通を契機とし、機能の移転を目指す
- ・陶磁器生産量日本一をより PR する

④「まちの将来像について」

- ・土岐市らしさと固有の地域資源、政策をかけ合わせて考える
- ・大胆な変化を目指すのか、今までを継承するのかの方針決定が必要
- ・他の市で使われない土岐市ならではの表現
- ・二重に解釈できる言葉
- ・キーワード

「明るく」「元気」「楽しく」「住みやすいまち」「子どもと女性」「陶磁器」「やきもの」「変える・変わる」「未来」

⑤「基本目標について」

- ・6つの基本目標の分野について、原案のとおり了承を得た。

(2)第2期土岐市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について

- ・改訂について、原案のとおり了承を得た。

II. 指摘事項・課題

(1)第七次総合計画基本構想について

①計画策定にあたって

- ・第六次総合計画の反省に基づいているのか。
→第六次総合計画の振り返りは第1回審議会でも報告したとおり。審議会では、振り返りを踏まえて第七次総合計画にどう反映してしていくのかをご審議いただきたい。
- ・計画を確実に実行するためにだれが実施するのか明確にすべき
→第七次総合計画を実現するための個別計画で具体的に誰が実施するかを明確にする。

②社会潮流について

- ・ 公共施設の統廃合実績は具体的に何か。
⇒下石保育園、下石幼稚園と山神保育園を統合し、西部こども園を整備した。また、妻木児童館と泉憩の家を廃止した。
- ・ 公共施設の削減ではなく縮減というソフトな表現が良い。
⇒必要に応じ表現方法を検討する。
- ・ 産業についての取り組みの記載があると良い。
- ・ 地域 DX と呼ばれる、民間との競争によって生まれるデジタルを使った新たな産業の観点について記載があると良い。
- ・ 事業承継の観点の記載があると良い。
⇒記載を検討する。

③土岐市の現況について

- ・ 企業誘致は誰が実施するのか。
⇒土岐市が行う。
- ・ 企業誘致の際、土岐市と民間と連携し、懇談会など開催はしないのか。
⇒懇談会は開催していない。誘致する企業に関連する企業の話は何っている。

④まちづくりの課題について

- ・ 子どもに関する人手不足は多い。先生やカウンセラーを増やすなど力を入れるとよい。
- ・ 他校の子どもが交流できるように、連携できるとよい。
⇒こども計画を策定中であり、第七次総合計画とあわせて施策を実施していく。
- ・ 人口増には魅力ある働き場が必要。その確保に向けた課題も記載する必要がある。
- ・ 若い人が住みたいと思うまちづくりが必要。地場産業を大事にするのか新しい産業の誘致に注力するのか、どう考えているのか。
⇒陶磁器産業は土岐市の基幹作業であり継続して支援していくとともに、企業誘致も並行し、バランスよく発展をさせていきたい。
- ・ 課題の例示は、基本目標と対応しているのか。
⇒課題の例示は第六次の内容をもとに現在の状況を加味し改良したもの。
- ・ 30 代、40 代が市政に参画する機会はあるのか。
⇒ワークショップなど総合計画をはじめ、各種計画の策定の際に取り入れている。
- ・ 市民の所得向上に関する内容は無いのか。
⇒所得向上に関して土岐市が実施できる施策は難しい。
- ・ 駅前の空き店舗対策が必要。駅前とは通勤通学される方向けに充実してはどうか
- ・ バス等も医療機関に向かわれる方に向けて充実していただけると良いのではないかと。
- ・ 行きたい高校に通えるように公共交通機関が充実するとよい。
- ・ 災害時要配慮者リストを活用できている地域とできていない地域がある。解決策が見つからず不安が募っている。
- ・ 人口増は「土岐市に来訪」→「リピーターになる」→「土岐市のファンになる」→「移住・定住」というステップだと思う。土岐市に来訪してもらうためには魅力あるまちづくりが必要。
- ・ 河川の整備は、防災面、防犯面、景観面からも重要。観光にもつながると考える。
- ・ 市民との共創は大事。協働ではなく共創であることを市民に理解してもらう必要がある。
- ・ 土岐市職員がもっとまちのことで議論してもらいたい。いろんな問題意識を持っているので、職員の意見も非常に重要。
- ・ 生涯未婚率数が高いことへの対策を検討して欲しい。
- ・ 全国の自治体で人が増えている、にぎわっているところに共通するのは「よそ者に優しい」ところ。外の人との接点も重要。
- ・ いっそのことベッドタウン化を進めるなど、目標として人口増を掲げるといい。

⇒意見を踏まえて、事務局で、課題についての原案を作成する。

⑤将来人口について

- ・4.1万人を維持するのは、行政サービスを維持できる限界などの目安があつての設定か。
⇒コロナ禍前の出生率まで回復すると達成可能な数値である。行政サービスが維持できる目安の数値はない。人口密度については、一定程度の密度があると生活利便施設が立地するなどの数値はあるので人口密度は維持していきたい。
- ・瀬戸市では転入増になっていると聞いている。土岐市との違いなど分析はしているのか。
⇒瀬戸市の要因を把握していないが、多治見市では外国人の転入が多いと聞いている。
- ・首都機能移転のような誘致活動をしているか。
⇒現時点で、なにか動いているものはない。
- ・人口減が前提ではなく人口増もあり得る。必死にアイデアを出すことが必要。奇抜なアイデアでまちづくりの起爆剤のようなことを実施していくことも必要。
- ・DV 被害者への支援とかひとり親家庭などへの支援もあるとよい。
- ・学力が向上するように、先生への支援があるとよい。
- ・リニアは大きなチャンスである。災害につよい特徴を生かして、いろいろ誘致すべき。
- ・陶磁器生産日本一をもっと宣伝すべき。ただし、課題として陶磁器産業は低賃金であるので、他の産業を振興したり、ベットタウン化したりすることも必要。
- ・織部の里公園周辺には資源が多数あり、日本でも有数の場所になる可能性を秘めている。
⇒意見を踏まえて、まちづくりの課題などの記載に取り入れる。

⑥まちの将来像について

- ・「明るく元気に楽しく」という言葉を入れると良い
- ・陶磁器のまちなので、土と炎。土岐市とわかる言葉を入れるとよい。
- ・「や」は優しさ、「き」は希望、「も」はものづくり、「の」は伸び行くといった意味を込めてもいい。
- ・変化を求めるのか、現状のままかを決めた方がよい。それによってキーワードも変わる。
- ・変化が大事であり、「あなたの行動がみんなをかえる。変わろう。すてきなみらいのため土岐市」ではどうか。

⑦基本目標について

- ・第六次総合計画との違いはあるか。
⇒第七次総合計画は6つに再編。文化と産業を一つにし、その他土岐市の組織機構に合わせた。

Ⅲ. 次回に向けて（協議事項）

- ・基本構想（素案）の検討
- ・実施計画（骨子）の検討

6. 記録

1 開会

事務局 本審議会について、委員 15 名全員の出席があり、土岐市総合計画審議会規則第 4 条第 3 項により、本審議会は成立。

2 会長あいさつ

会長 第 1 回審議会で審議会の今後の方針や方向性、第六次総合計画の実施状況や進捗状況、検証課題等を確認し議論いただいた。土岐市においても、人口減少、少子高齢化が進んでおり、これにしっかりと対処し、持続可能な地域をつくっていくことは喫緊の課題となっている。

本日の審議会では、社会潮流や、現在の土岐市の現況等を踏まえつつ、第七次総合計画の検討をする。忌憚のない率直な意見をお願いします。

3 議事

(1)第七次総合計画基本構想について

①「計画策定にあたって」「社会潮流について」「土岐市の現状について」

事務局 資料 1「計画策定にあたって」、2「社会潮流について」、3「土岐市の現状について」説明。

会長 資料の 1、2、3 は、第七次総合計画を策定する上での現状分析である。委員の意見を求める。

委員 10 年とその先を見据えてとあるが、過去の 10 年である第六次総合計画の検証は充分できているか。反省の上で第七次総合計画を策定するのか。

事務局 第六次総合計画に関する振り返りは、第 1 回審議会でご報告したとおり。本日の審議会でもまちづくりの課題などについて、議論いただきたい。あわせて今後の審議会でも、課題を達成するために、どのように施策をしていくのかを審議いただき、意見をいただきたい。

会長 第七次総合計画において、第六次総合計画の検証、課題等についても記載するのか。

事務局 第六次総合計画は、審議会での第五次総合計画の振り返り総括を踏まえて策定している。第七次総合計画も前回の審議会での振り返り、効果検証を踏まえて記載する。

会長 課題や効果検証は、まちづくりの課題に含めて検証しているということか。

事務局 本日、資料として提示しているものは、第七次総合計画のうちの基本構想になる。基本構想に前計画の振り返りのページは特設していない。まちづくりの課題などを議論いただく中で、こういう取り組みをしたが、人口減の状況が続いているというような振り返りをする。

委員 資料 2 の 3 ページに公共施設の削減と記載されている。この 10 年間で公共施設の統廃合は具体的にどんなことをしたか。

事務局 資料 2 の社会潮流は、社会全体の傾向として公共施設の削減が進められているという記載である。土岐市では、公共施設等総合管理計画を策定し、削減目標を定め、現在取り組んでいるところ。効果的な活用は課題だと認識しており、重点的に取り組んでいきたい。

統廃合した施設を例示すると、下石保育園、下石幼稚園と山神保育園を統合し、西部こども園を整備した。また、妻木児童館と泉憩の家を廃止した。

人口に対して公共施設の面積が多いという現状がある。総合管理計画を進めながら、土岐市に必要な公共施設の適正配置を図る。廃止や統廃合が進んでいないところもあるが、今後、人口減が予想される中で、廃止や統合を進めていく。

会長 公共施設が 1990 年代から 2000 年代初めにかけて日本中で作られた。それが時代の変化や人口減少に合わせて、だんだん縮小していく流れである。削減という言葉は一方的に削っているというイメージがある。人口縮減社会とも言われており、例え

- 事務局 ば、縮減などソフトな表現などでしょうか。
- 事務局 公共施設削減は、公共施設を土岐市の中でいかに適正に配置していくかという考え方である。
- 委員 資料 1 の 3 ページの計画の期間について、10 年間で実施計画は計画期間を 3 年としますと載っている。一番問題なのは誰が実行するかということ。
- 事務局 土岐市が実行するのか、民間が実行するのかを具体的に計画の段階で明確にしていきたい。
- 事務局 資料 1 の 2 ページに記載されているとおり、総合計画は土岐市の最上位計画で、計画の構成として基本構想、実施計画という 2 層構造となっている。実施計画の中で具体的な施策を定め、さらに個別計画において、具体的な実行者の記載をする。
- 委員 資料 3 の 3 ページの「土岐市の弱み」で、「基幹産業でもある窯業の振興と新産業の誘致や育成・起業支援が求められています」と記載されており、例えば研究所の移転先や企業の誘致を進めることが一番経済的に発展すると思う。企業誘致は土岐市が進めているのか。
- 事務局 企業誘致は土岐市が実施している。企業の進出の意向と場所の提供が合致しないと、企業誘致はできないため、土岐市が力を入れてきた。例えば、アクアシルヴァなど 10 年間でいろいろ企業は進出してきている。企業の意向を踏まえて、引き続き進めていきたい。
- 委員 土岐市と民間の企業が連携して企業誘致することはないのか。土岐市が独自で誘致しているのか、地場産業の方と懇談会などの機会はないのか。
- 事務局 民間と一緒にあった懇談会等は行っていない。企業から関連する企業の誘致の話を伺うことはある。
- 委員 資料 2 に、産業の取り組みについても記載すべきではないか。
- 事務局 3 ページの「自治体 DX や行政サービスの向上」で、市役所を中心とした行政サービスの DX は必要だと思う。一方で地域 DX と呼ばれる、民間との競争によって生まれるデジタルを使った新たな産業の観点についても記載した方が良い。
- 委員 2 ページの「慢性化・増加する人手不足」について、国でも事業承継の観点で政策を出している。特に駅前も、店を閉じずに維持していくのかという観点での政策に繋がる記載があっても良い。
- 事務局 インバウンドが盛んになり、外国人観光客は過去最高になっている。外貨獲得についての記載があると第七次総合計画に繋がる政策も出てくるのではないかと。
- 会長 ご指摘の箇所は、資料 2 の社会潮流についてのことであるが、資料 3 の土岐市の現況にも記載すべきということか。
- 委員 社会潮流として記載した上で、必要であれば土岐市の現況について反映される項目があれば記載いただきたい。
- 会長 資料 1 から 3 の検討は以上とする。

②「まちづくりの課題について」

- 事務局 資料 4「まちづくりの課題について」説明。
- 会長 土岐市のまちづくりの課題について、土岐市の現状や社会潮流等も踏まえて、委員から意見、キーワードをいただきたい。
- 委員 ショッピングモールやアウトレットではにぎわいはあるが、駅前空き店舗となっている。公共交通機関の充実が大切である。県外からの訪問客は車での来訪が多いが、駅前で駐車場もない中で賑わい創出のためにイベントをすることが良いことなのか。駅周辺に集中するのではなく車で移動して楽しめる場所も充実した方がよい。駅周辺は通勤通学に、公共交通は病院への通院などに特化してはどうか。
- 委員 「こどもがまんなかのまちづくり」というのは大事だと思う。子どもに関わることで人手不足は多い。先生やカウンセラーを増やしてほしい。また、出産可能ということは重要であり、力を入れていただきたい。
- 委員 親が学校まで送迎できなかったため、子どもが進学したい高校ではなく送迎のある学校へ進学したという話を聞いた。子どもたちが進学したい学校へ行けるよう、公共交通が充実していると良い。
- 事務局 「こどもがまんなかのまちづくり」について、伝統芸能フェスティバルで異なる

地域子どもたちが触れ合う機会があった。地域ごとに交流できる機会がもっとできると良い。

学校の部活を廃止してクラブ活動となる中で、親が送迎できずクラブに入れなかったり、メンバーが足りず試合ができなかったりしている。人口減少が進んでいく中で、どのようにつながりを持たせるかは課題であるが、学校同士、子ども同士の連携を進めて欲しい。

委員 「こどもがまんなかのまちづくり」について、資料 3 で市民が教育・保育に満足していないという調査結果が出ている。委員からも指摘があったが、これまでの取り組みの検証はどうなっているか。

事務局 「こどもがまんなかのまちづくり」に関する取り組みについて、現在、こどもが社会に出るまで、切れ目なく、どのように寄り添うか、という内容のこども計画を策定中である。

土岐市の子育て環境について満足してない、という主観指標が出ていることについては、客観的な指標で見ると土岐市は全国の平均的な環境ではあるが、子育てに対するニーズが非常に高いことが伺える。第七次総合計画等に子育てを重点施策として位置づけ、こども計画等で具体的に実施をしていきたい。

委員 「安全・安心に暮らせる地域の形成」について、防災対策から災害時の行動をすべて行政に任せることは不可能な状況である。民生児童委員が災害時要配慮者名簿を作成しているが、実際に災害が起きた場合に、一部の小さな地域では大丈夫かもしれないが、土岐市全体として対応できるのか。きちんと整理しておいていただきたい。

委員 課題の例で見当たらないが、若い人が地域に定着するために魅力ある働き場所の確保が非常に大切だと思う。そのために企業誘致や、地場産業を持続可能な形で発展させたり、新しい産業を創出したりすることも必要である。

委員 同様に、まちづくりの課題として、魅力あるまちづくりをして、若い人が土岐市に住みたいと思うことが重要。今後も継続して日本一の生産量である陶磁器産業を大事にしていくのか、新たな産業を取り入れたり誘致したりしながらまちづくりを進めるのかをお聞きしたい。

また、先ほど委員の発言もあったが、防災連絡会議の中でも、弱者をどのようにして、いざというときの防災に対応するかということが、非常に大きな問題となっている。最近は避難所訓練を始めており、行政だけでなく防災士などが中心となって避難所設営に取り組むにはどうしたら良いかを試行錯誤している。

事務局 陶磁器産業は主幹産業で多くの人が携わっており、支援をなくすことは考えていない。あわせて、企業誘致に取り組んでいく。

会長 参考 1 の課題の例で、6 つほど例があるが、例の基準はあるか。

事務局 課題の例は、第六次総合計画での課題を元に整理し、内容を最近の状況に合わせて書き換えたものである。

委員 「進展する人口減少」の「移住者の増加」について。転職なき移住や、都会と田舎で「トカイナカ」という言葉が近年出てきている。土岐市はそのようなエリアである。移住までのステップとして、観光に来て、リピーターになり、ファンになり、移住というケースがある。リピーターがファンになった段階で、行政の中身、子育て支援や移住支援は何があるかを確認する。まず観光やまちなかのにぎわいづくりが最初のステップとして必要ではないか。

「安全安心で暮らせる地域の形成」について。土岐川はある程度整備されているが、支流の妻木川や肥田川、下石川などは、草や樹木が生い茂っており景観にも影響している。河川の整備が災害や不法投棄の防止、防犯対策に繋がる。

「市民との共創によるまちづくり」について。協働ではなく共創という言葉が重要。共創と協働の違いを理解していただく工夫が必要。

委員 土岐商工会議所、観光協会はまちづくり協会だと思っている。素晴らしいメンバーでとても良い意見が出る。委員から出た意見はおよそ実施している。企業誘致も戦略室を作ってやっている。第七次総合計画は多岐にわたることをやろうとするが、最終的に住みやすいまちづくり、誇りの持てるまちづくり、魅力あるまちづくりに絞れば間違いなく良くなる。

資料の後半に土岐市職員による SWOT 分析が出ている。委員に意見を求めることも重要だが、行政職員が何百人もおり土岐市のために一生懸命頑張っている。問題意識を持っている職員にもっと議論してもらいたい。

委員 「こどもがまんなかのまちづくり」の最初、合計特殊出生率が 0.99 となっている。前回の審議会で質問したが、原因の 1 つに、生涯未婚率数が高いことがあった。子育て環境の整備は課題として見えるが、生涯未婚率が高い事に対する施策を検討していただきたい。

委員 まちがにぎわっていたり、人口が増えていたり、外から人が移住してくるような自治体に共通する特徴が 1 点ある。よそ者に優しい、ということが何よりも大事で、先ほど委員の発言があったが、リピートして、いずれ移住したり、2 地域居住、生活みたいな話に繋がる。外の人との接点の観点、近所の人たちの仲のよさみたいなものが染み出て外にも繋がってくると、自ずとまちのにぎわいにも繋がるし、子育て環境もよくなる。

委員 まちづくりは人がいなかったらできない。課題については、土岐市の大目標、人口を増やすことの下に、どうやって集まって住んでもらうかを考える。産業や様々な課題もあるが、まち、土岐市駅前あたりを活性化しなくてはいけない。そのために、手段を選ばないという気持ちで、人口増やすためにはベッドタウン化を検討すべきだと思う。

委員 「市民との共創によるまちづくり」で、「市民の市政の参画機会を創出する」とある。第七次総合計画に 30 代、40 代の方の意見を反映させないといけない。他市では、ボランティア団体が市と連携して対面で意見を聞く場所を設け、市が選んだ 100 名ほどでグループワークして、若い人からの意見をボランティア団体が市の方に持っていくという事例があった。参考にしてほしい。

事務局 市民が参画する機会は、広く市民の意見を第七次総合計画の中に取り込んでいけるようにワークショップを開催している。20 代 30 代の方も、60 代や 70 代の高齢の方もメンバーにいる。また、新博物館や駅周辺のまちなか居住に関する取り組みでもワークショップ等開催している。できる限り広く市民の方々、若い方々の意見を聞けるような機会を作っていきたい。

委員 委員から企業誘致についての話があった。第七次総合計画の策定の最初に、「人々が幸せを実感できるまちづくりのために」とあるが、経済的な豊かさがそれに直結すると感じる。所得水準や経済的な負担を課題としてないのは、何か考えがあつてのことか。

事務局 企業の業績や景気は当然関係するところで課題と考えているが、市民全体の所得を上げる、金銭面を豊かにするということは、土岐市の施策で対応することは難しいところがあり、第七次総合計画の中では記述しにくい。ご理解いただきたい。

会長 様々な意見、キーワード等をいただいた。一番の基盤は、にぎわいのある、魅力ある、誇りが持てて住みやすいまち、まちづくりである。それを踏まえて、頂いた様々な意見、キーワードを反映して、事務局は課題についての原案を作成していただきたい。

③「将来人口について」

事務局 資料 5「将来人口について」説明。

会長 今後、土岐市の人口が減少することは避けられないという説明。委員も、非常に厳しい数字と思われたのではないか。人口減少は避けられないが、その中で土岐市として人口減少に立ち向かうという話があった。人口減少が基調になるが、その中で委員の意見や思いを伺いたい。

委員 人口減少が当たり前だとは思わない、絶対増えると信じている。人口が減少すれば土岐市がつぶれてしまう。つぶさないために必死になって考える、命がけで考える、土岐市もそのぐらいの覚悟を持ってやる必要がある。

先ほど若い人たちが子育てしにくいという話があった。例えば、小型のバスで土岐市中を周り、アウトレットなどからどんどん人を呼び込む。そういった奇抜なアイデアが必要。費用対効果もあるので難しいが、思い切ったことをやることが、まちを変える起爆剤になる。

- 委員 離婚して子どもを育てるとき、土岐市は子どもを育てやすいアパートが少なく、他市に移るケースがあるという話を聞いた。家庭内でDV、暴力があった時に入れるシェルターが無い。子育て世代の、ひとり身の家庭が子育てしやすい環境もあると良い。
- 会長 前回の審議会でも、制度の狭間にあつて大変な思いをしている人が支援を受けられないという状況がないようにという意見があつたが、同様の意見である。
- 委員 どの市町村も補助金などが充実しており、出産時の補助金も増え産みやすくなった。これから移住する若い方が子育てするときに、子どもがどこの学校に通うかは重要である。先生方も努力しているのはわかっているが、全国学力テストが平均を超えない。先生方の支援など、学力向上のための施策を考えていただきたい。土岐市に住むと学力が上がるという、高校、大学への進学への安心があれば、対外的にアピールできる。
- 委員 7ページの図表9を見ると、合計特殊出生率が上昇しても出生数は減っている。出産する年代の女性が減っていくということで、厳しい現実である。
そのような中で20年後に4万人を切る予測を、何とか4万人切らないようにしようとする人口目標の設定は理解しやすく、市民にも知られやすいと考える。
- 委員 人口が減少しても、住んでいる人が幸せならそれで良いと考える。目標が4万1000人とあるが、住民サービスが維持できるぎりぎりが4万1000人なのか。根拠があつてこの目標数字になっているのか。
- 事務局 市が行政サービスを維持できる限界の人口は何人という確立された数値はない。行政サービスを維持するためには4万1000人が適正ということではなく、出生率をコロナ前に戻すという目標を達成すると、4万1000人が維持できるという数値である。ただ、人口や人口密度によって、コンビニや病院などの生活利便施設ができる目安はあり、そういった施設を維持するため、人口密度を保つことが必要と考えている。あわせて、子どもが減ると、学校でクラスが1クラスしか編制できなかったり交流が減ってしまったりする。子どもの数がまちのにぎわいというところもあり、出生数年間200人を確保したいと考えている。
- 委員 出生数を目標値にすると、人々が幸せを実感できるというところと必ずしもリンクしていないことが気になる。
瀬戸市は、土岐市と隣接しており同じように陶磁器が地場産業であるまちだが、最近では転入超過だと聞いた。近隣自治体でそういう状況がありつつ、土岐市はなぜ転入が上回る状態になっていないのか。何か土岐市で原因を分析しているか。
- 事務局 瀬戸市が転入超過となっている原因を把握していないが、多治見市では高校を卒業して大学に通う時期などで人口が流出することに対し、外国人労働者を積極的に雇用することで転入超過となっている。土岐市は外国人の流入はあるが、転出の方が多いため転出超過となっている。
- 委員 以前首都機能移転の話があつた。現在も誘致など活動しているのか。
- 事務局 現時点で具体的な機能誘致の話は無い。
- 委員 補足すると、首都機能移転の話がなぜあつたかという、地盤がしっかりしており災害に強いことをアピールしたからである。あるときに駄目になったが、リニアの完成は大きなチャンスである。人口を増やすには非常に重要であり、土岐市は自然豊かで歴史もある。首都機能でなくても何かを誘致するべきである。
- 委員 土岐市はただ単に陶磁器が盛んということではなく、日本一の陶磁器生産地であるともっとPRをするべき。課題として、地元の陶磁器産業は賃金が安く、豊田市に行くとその何十%増という給与がパートでも出る。陶磁器産業は日本一ということをしてPRしつつ、他の産業を発展させたり、高速道路代が出る企業がある豊田のベッドタウンを目指したりしてはどうか。
- 委員 土岐市の陶磁器生産量日本一は素晴らしいことであるが、今まで各町それぞれが力を持っており土岐市全体で日本一ということを出せなかった。今年陶磁器の祭りを一本化した、こういったことを増やさないといけない。同時に、新博物館ができ、周辺には元屋敷窯や乙塚古墳など非常に良いものがたくさんある。そこをメッカにすることに極めて力を入れていけば、日本でも有数なところになると信じている。経済界も観光業界も一生懸命やっている。

会長 委員の非常に貴重な意見、先ほどの課題にも繋がる意見を踏まえて、事務局で第七次総合計画の原案作成に活かしていただきたい。

④「まちの将来像について」

事務局 資料6「まちの将来像について」説明。

会長 なかなか難しい課題だが、意見やアイデアをお願いしたい。

委員 今、土岐市は若い世代、青年会議所の方たちも頑張っている。「3ページのワードクラウドで、「しやすい」の左側に「明るい」とある。これを「明るく」とし、そのあとに「元気」「楽しく」という、土岐市として今頑張っている姿が分かる言葉を入れていただきたい。

委員 他にはない言葉があったほうが良い。住みやすいまちは、子どもと女性を大事にするまちである。

日本一の陶磁器のまちを表す土と炎などはどうか。関ヶ原の「古戦場」や、海津の「輪中」のような、できる限り他にない、土岐市とわかるとキーワードが良い。

委員 4ページで、大事にしたいもののワードクラウドで中心にあるのは陶磁器や地場産業、美濃焼などがある。土岐市らしさ、アイデンティティは、焼き物にあると思う。「や」は優しさ、「き」は希望、「も」はものづくり、「の」は伸びゆくといった二重の解釈を込めてはどうか。

委員 人口ビジョンもそうだが、大胆な変化を目指すのかどうか、第七次総合計画を作る上で議論が分かれるところである。変化や進化に重きを置くのであれば、「子ども」や「女性が働きやすい」、「駅前のベッドタウン化」などがキーワードとなる。今までの延長であれば、ワードクラウドでキーワードから出ているもので良い。まずは方針を決めるべきである。

委員 急速に国も変わっており、変化は大事である。例えば、「あなたの行動がみんなを変える 変わろう すてきな未来のため 土岐市」はどうか。

会長 委員から出た意見は、土岐市らしさと、土岐市固有の地域資源と、政策をどういう方向に進めたいのかを、かけ合わせつつ、考えてはどうかというもの。

あわせて、今までの踏襲するのか、大きく変わるのかということ。事務局がいくつか案を作成した上で検討したい。

⑤「基本目標について」

事務局 資料7「基本目標について」説明。

会長 第六次総合計画との違いはあるか。

事務局 第六次総合計画の基本目標は5つで、健康福祉、経済環境、教育文化、安全基盤、協働行政の分野となっている。第七次は再編して6つにした。大きな変更は、土岐市を代表する陶磁器が産業であり文化であり観光であることから文化と産業の基本目標のカテゴリを合わせたこと。その他、現在の土岐市の組織機構に合わせた。

会長 土岐市の部署機構に合わせて、このような仕分けをしたということ。

分野について意見が無ければ、この基本目標の下の方針について今後検討していく。

(2)「第2期土岐市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について」

事務局 資料8「第2期土岐市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について」説明。
会長 説明のあった2点の変更について、異議はあるか。異議なしということで承認してよろしいか。

(異議なし)

変更について承認する。

本日の議事内容はすべて終了となる。委員からは、多岐にわたる貴重な意見をいただき、感謝申し上げます。事務局は、委員の意見を反映して第七次総合計画案を作成いただきたい。

4 その他

事務局 委員からその他意見があれば伺いたい。
(意見無し)

5 閉会

事務局 子育てや防災、基盤整備など各項目各分野で意見をいただいた。各分野すべて網羅して回答できずお詫びする。いただいた意見は、各担当に伝える。

以上で令和6年度第2回土岐市総合計画審議会を終了する。次回の審議会は、令和7年2月20日木曜日午後2時を予定している。

午後4時10分終了